

JICA 基金活用事業 案件概要

I. 事業の概要	
1. 事業名称	ロンボク島と広島県福山市を結ぶ持続可能な農業のための農薬・化学肥料の使用と管理
2. 活動国・地域	インドネシア共和国 ロンボク島 中部ロンボク県 スガラアニャル村
3. 事業分野	開発途上国・地域の人びとの貧困削減や生活改善・向上に貢献する事業
4. 事業の目標	日本の農薬及び化学肥料の使用及び管理方法がロンボク島の中部ロンボク県にある スガラアニャル村において実践される 【期待される波及効果】びんご地域と中部ロンボク県の農業従事者の相互理解が促進される
5. 事業の背景・経緯・対象地域の課題・人びとのニーズ	プロジェクト地があるロンボク島では近年、農薬の使用が農村部や貧困地域にも広がり、農薬に関する知識が乏しいまま多用されるケースが増加している。農薬による健康被害や土壌・水質の悪化が報告されており、適正な農薬管理を通じた持続可能な農業への転換が急務とされている。 一方、当法人が農業を営む福山市・びんご圏域では農業の担い手不足と外国人住民の増加という2つの潮流が交差する今、農業分野においても多文化共生のあり方を模索する必要性が叫ばれている。
6. 事業の意義・目的	農業者、行政職員、大学教授が連携し、日本における農薬管理の実践的な知見と制度をモデルとして取り入れ、スガラアニャル村に適用することを目的とする。地域住民自らが主体となり農薬管理の改善に取り組む体制を構築し、持続可能で安全な農業の確立に資するモデルケースを提示する。2024年12月から1年間実施した牛糞の清掃と牛糞堆肥の活用を通じたモデル農家創造プロジェクトを継続的に実施し、農薬や化学肥料を適正に使用しながら、村の資源を有効活用するモデルをスガラアニャル村で構築する。また、本邦研修中での、びんご地域の農業従事者とロンボク県の研修員との交流を通して、相互理解の促進が期待される。
7. 主な対象者(受益者)	ロンボク島 中部ロンボク県 スガラアニャル村の農民
8. 実施期間	(西暦) 2026年6月 ~ 2027年5月
9. 活動内容	1. 適正な農薬・化学肥料管理の仕組みについて学ぶ本邦研修を実施する 2. 本邦研修で学んだことを現地で実践するフォローアップを実施する 3. プロジェクト地において「安心・安全」な野菜づくりのモデルの案が策定される
9. 事業費	1,000,000円
II. 団体の概要	
1. 実施団体	一般社団法人わかいふあーむ
2. 主な活動内容	当法人は、「国際協力」および「国際交流」を通じ、日本とインドネシアの両地域における農村地域の発展と地域農業の振興に寄与することを目的として設立されました。両地域が抱える農村地域の課題を共に共有しながら、持続的な農村の発展を目指し活動しています。